

表 29 各試験における無毒性量の比較

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) ¹⁾
			農薬抄録
ラット	90日間 亜急性 毒性試験 ①	0、25、100、1,000	雄：25 雌：25 雄：体重増加抑制、肝絶対及び比重量増加等 雌：Hb及びHt減少、肝絶対及び比重量増加等
	90日間 亜急性 毒性試験 ②	0、300、1,000、3,000 ppm 雄：0、17.8、62.1、189 雌：0、21.6、71.3、207	雄：17.8 雌：21.6 雄：体重増加抑制、肝絶対及び比重量増加等 雌；TSH増加、肝絶対及び比重量増加等
	2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験 ①	0、10、100、1,000、3,000 雄：0、0.5、4.8、50.9、163 雌：0、0.6、5.9、60.9、193	雄：4.8 雌：5.9 雄：体重増加抑制及び摂餌量減少等 雌：肝、腎絶対及び比重量増加等 (雄：肝細胞腫瘍の増加)
	2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験 ②	0、3、10、100、1,000 ppm 雄：0、0.11、0.36、3.5、39 雌：0、0.13、0.44、4.2、44	雄：0.36 雌：4.2 雄：小葉中心性肝細胞肥大 雌：肝及び腎絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大等 (雄：肝細胞腫瘍の増加)
	2世代 繁殖試験	0、20、60、200 P雄：0、1.4、4.3、14.3 P雌：0、1.7、5.2、16.5 F ₁ 雄：0、1.6、5.0、16.7 F ₁ 雌：0、2.0、6.1、20.0	親動物： P雄：14.3 F ₁ 雄：16.7 P雌：5.2 F ₁ 雌：6.1 児動物： P雄：14.3 F ₁ 雄：16.7 P雌：16.5 F ₁ 雌：20.0 親動物：正常な性周期を示す動物数減少、 妊娠期間延長、肝比重量増加、小葉周 辺性肝細胞肥大 児動物：毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)
	発生毒性 試験	0、3、12、40	母動物及び胎児：12 母動物：体重減少、着床前、着床後損失及 び吸収胚増加傾向 胎児：生存胎児数及び平均胎児体重減少、 小胎児増加、化骨遅延 (催奇形性は認められない)
マウス	2年間 慢性毒性/ 試験	0、300、1,000、2,000	雄：— 雌：—

	発がん性併合試験①	雄：0、48、153、319 雌：0、201、417	雌雄：肝絶対及び比重量増加、肝結節性過形成等 (雌雄：肝細胞腫瘍の増加)
	2年間慢性毒性/発がん性併合試験②	0、3、10、100、1,000 ppm 雄：0、0.32、1.09、10.6、113 雌：0、0.28、0.92、9.3、99	雄：1.09 雌：9.3 雄：び慢性肝細胞壊死、び慢性肝細胞肥大等 雌：小葉中心性肝細胞肥大、び慢性肝細胞肥大等 (雌雄：肝細胞腫瘍の増加)
ウサギ	発生毒性試験	0、20、60、180	母動物及び胎児：60 母動物：排便量減少、体重増加抑制、摂餌量減少 胎児：着床後損失率増加、小胎児増加傾向 (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間亜急性毒性試験	投与第1~3週：0、1,000、4,000及び10,000 ppm 投与4週以降：0、25、100、1,000	雄：— 雌：25 雄：Ht及びBSP減少 雌：ナトリウム増加
	1年間慢性毒性試験	0、5、20、60、200	雄：20 雌：20 雄：体重増加抑制、肝比重量増加等 雌：TP減少
ADI			NOAEL：0.36 SF：100 ADI：0.0036
ADI設定根拠資料			ラット2年間慢性毒性/発がん性併合試験

—：無毒性量を設定できず。

ADI：一日摂取許容量 NOAEL：無毒性量 SF：安全係数

1) 無毒性量欄には、最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

<別紙 1 : 代謝物/分解物等略称>

代謝物/分解物

番号	化学名
2	5- <i>tert</i> -ブチル-3-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
3	5-(1-カルボキシ-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2-オン
4	5-(1-カルボキシ-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
5	5- <i>tert</i> -ブチル-3-[2,4-ジクロロ-5-(1-ヒドロキシメチル-エトキシ)フェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
6	5-(1-ヒドロキシメチル-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
7	5- <i>tert</i> -ブチル-3-[2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)フェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
8	5-(1-ヒドロキシメチル-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
9	5-(1-ヒドロキシメチル-1-メチルエチル)-3-[2,4-ジクロロ-5-(1-ヒドロキシメチルエトキシ)フェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
10	5-(1-ヒドロキシメチル-1-メチルエチル)-3-[2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)フェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
11	5-(1-ヒドロキシメチル-1-メチルエチル)-3-[2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)フェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
14	1-[2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)フェニル]-2-トリメチルアセチル-ヒドラジン (人工生成物)
15	1-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-2-(2-ヒドロキシメチル-2-メチルプロピオニル)-ヒドラジン
16	1-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-2-トリメチルアセチル-ヒドラジン
19	5- <i>tert</i> -ブチル-3-(2,4-ジクロロ-5-メトキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
22	1-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1-メトキシカルボニル-2-(2-ヒドロキシメチル-2-メチルプロピオニル)-ヒドラジン
23	1-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1-カルボキシ-2-(2-カルボキシ-2-メチルプロピオニル)-ヒドラジン
24	1-[2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)フェニル]-1-カルボキシ-2-トリメチルアセチルヒドラジン
25	1-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1-メトキシカルボニル-2-トリメチルアセチルヒドラジン
26	1-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1-メトキシカルボニル-2-(2-ヒドロキシメチル-2-メチルプロピオニル)-ヒドラジン
27	5- <i>tert</i> -ブチル-3-[2,4-ジクロロ-3(または6)-ヒドロキシ-5-イソプロポキシフェニル]-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
28	5-(1-カルボキシ-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-3(または6)-ヒドロキシ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
31	5- <i>tert</i> -ブチル-3-(2(または6)-クロロ-6(または2)-ヒドロキシ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
32	5-(1-カルボキシ-1-メチルエチル)-3-(2,4-ジクロロ-5-(1-カルボキシエトキシ)

	フェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
33	1-(2,4-ジクロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1-メトキシカルボニル-2-トリメチルアセチル-ヒドラジン
35	5- <i>tert</i> -ブチル-3-(2-クロロ-5-ヒドロキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3 <i>H</i>)-オン
37	6-クロロ-3-(2,2-ジメチルプロピオニル)アミノ-5-イソプロポキシ-2-ベンゾオキサゾリノン
39	3-(2,2-ジメチルプロピオニル)アミノ-5-ヒドロキシ-2-ベンゾオキサゾリノン

原体混在物

番号	化学名
1	(原体混在物)
2	(原体混在物)
3	(原体混在物)
4	(原体混在物)
6	(原体混在物)
9	(原体混在物)
12	(原体混在物)
ピバル酸	(原体混在物)

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT))
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT))
BCF	生物濃縮係数
Bil	ビリルビン
BSP	ブロムサルファレイン
BUN	血液尿素窒素
ChE	コリンエステラーゼ
C _{max}	最高濃度
DEN	N-ニトロソジエチルアミン
GGT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ (=γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GTP))
Glu	グルコース (血糖)
GST-P	胎盤型グルタチオン-Sトランスフェラーゼ
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
His	ヒスタミン
Ht	ヘマトクリット値
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
LDH	乳酸脱水素酵素
Lym	リンパ球数
MC	メチルセルロース
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
PB	フェノバルビタールナトリウム
PEC	環境中予測濃度
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
RBC	赤血球数
T _{1/2}	消失半減期
T ₄	サイロキシン
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Bil	総ビリルビン
T.Chol	総コレステロール
T _{max}	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
TSH	甲状腺刺激ホルモン
WBC	白血球数

<別紙 3 : 作物残留試験>

作物名 (分析部位) 年度	試験 圃場数	使用量 (g ai/ha) 処理方法	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					オキサジアゾン		オキサジアゾン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (玄米) 2001年	1	①乳剤(12%) 500 mL/10a、 1回原液散布 及び	2	107	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				114	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				121	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1	②粒剤(4.5%) 1 kg/10a、 1回湛水散布 ①+②の2回散布	2	104	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				113	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
水稲 (稲わら) 2001年	1	①乳剤(12%) 500 mL/10a、 1回原液散布 及び	2	107	0.03	0.03	0.03	0.03
				114	0.01	0.01	0.02	0.02
				121	0.01	0.01	0.02	0.02
	1	②粒剤(4.5%) 1 kg/10a、 1回湛水散布 ①+②の2回散布	2	104	0.08	0.08	0.07	0.06
				111	0.06	0.06	0.06	0.06
				113	0.10	0.10	0.09	0.08

・ 定量限界未満のデータは定量限界値に<を付した。

<参照>

1. 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
2. オキサジアゾンの魚介類における最大推定残留値に係る資料
3. 農薬抄録オキサジアゾン（除草剤）（平成 19 年 9 月 26 日改訂）：バイエルクロップサイエンス株式会社、2007 年
4. 食品健康影響評価について
(URL : http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-oxadizson_200111.pdf)
5. 第 222 回食品安全委員会
(URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai222/index.html>)
6. 第 11 回食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第二部会
(URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kakuninn2_dai11/index.html)
7. 第 41 回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
(URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai41/index.html)